

巡回展紹介

土の中の虫

いつもふみしめている土の中にはいろいろな虫がいることをご存じですか。ミミズやダンゴムシ、カブトムシやセミの幼虫^{ようちゅう}のように1cmをこす大きなものもありますが、長さが1mmくらいのダニの仲間やトビムシという昆虫^{いんちゅう}などがたくさんすんでいます。さらにけんぴきょうでないとまったく見えない0.1mm以下のセンチュウやアメーバなどがたくさんいます。たとえば、1m×1mの広さに2ミリ以上の虫は30-2500匹^{びき}、ダニとトビムシ位の大きさの虫で50万匹程度、センチュウは100万から1000万匹^{びき}もすんでいます。

ところで森の中にはたくさんの落ち葉がつもっています。また、鳥やけもののがいやフンもあります。これらはおもに大きめの虫たちが食べてフンにし、小さくします。それをさらに小さな虫が食べ、そのフンをさらに小さな虫が食べます。最後に土の中の細菌^{きいきん}やカビ^{しょうぶつ}が植物^{えいよう}の栄養にもどします。かれらは森や田畑^{たはた}にとって、とても大切なはたらきをしています。

日本土壤動物学会^{にほんどじようどうぶつがくかい}が30周年を迎え、その記念巡回展^{きねんきんかい}「土の中の小さな動物」が6月1日まで富山市科学博物館^{とやましけんがくはくぶつかん}で開かれています。このような虫たちの姿^{すがた}や森でのはたらきを写真や標本^{しやしん ひょうほん}で見てください。

	主 な 仲 間	
大型の虫 体のはばが2mm以上	 ヒメフナムシ	 ミミズ
中型の虫 体のはばが0.1-2mm	 サカダニ	 トビムシ
小型の虫 体のはばが0.1mm以下	 アメーバ	 センチュウ